

日本遺産に認定 出雲國たたら風土記



たたら製鉄が生み出した独特な景観

亀嵩小学校・高田小学校統合記念植樹

4月12日、亀嵩小学校校庭にて学校統合記念の植樹が行われました。晴天のなか、児童や教職員が力を合わせ、モミジの樹を植えました。

校庭に植えたモミジは、平成21年度に高田小学校が優良PTA文部科学大臣表彰を受賞したときの記念樹を移動させてきたものです。モミジの傍には、統合時に在籍していた児童・教職員の名簿、入学式のしおり、樹の紹介文をカプセルに入れて一緒に埋めました。

植樹を終えた後、全員で万歳をして、学校統合の喜びを分かち合いました。



記念植樹の様子

島根ワイナリー創立30周年記念式典

出雲市島根ワイナリーにおいて、3月22日に創立30周年記念式典が執り行われました。

式典では、横田ヴィンヤード設置・運営に協力し、その発展に貢献したことを感謝して、奥出雲町に感謝状と記念品が贈られました。

ヴィンヤードとはブドウ農園のことで、奥出雲町竹崎に横田ヴィンヤードがあります。標高430~440mの高地にシャルドネやカベルネ・ソービニオンなど1,715本のブドウの樹が植えられ、高品質ブドウ原料の生産が行われています。



松浦克美代表取締役社長(左)と勝田町長



みんなでゴール

第2回奥出雲ウルトラおろち100km遠足(とおあし)が4月16日に開催され、国内外から420名と13チームが参加しました。この大会は、町内の全地区をコースとした全長100kmのマラソン大会です。マラニックとは、マラソンとピクニックを合わせた言葉で、自分のペースでゆっくりと、遠足気分景色を楽しみながら走る競技です。今大会では、100kmの部に333名、60kmの部に87名、60kmリレーの部に13チームがそれぞれ参加しました。

奥出雲ウルトラおろち100km遠足

声援を受けて笑顔▶



◀エイドステーションの様子



コース内に設けられた各エイドステーションでは、仁多米コシヒカリのおにぎりを始め、そば、焼きそばなどの奥出雲の食が振る舞われました。また、沿道では住民からの声援を受けて笑顔を交し合う姿がみられました。ランナーたちは、気温変化やアップダウンの激しいコースに苦戦しながらも、制限時間となる午後9時までには341名と13チームが完走しました。

▼日本遺産とは
日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を伝えるストーリーのことで、ストーリーの下に、有形・無形の文化財群を地域が主体となつて総合的に整備・活用し、地域の活性化を図ることを目的とした制度でもあります。

▼出雲國たたら風土記
今回、認定された「出雲國たたら風土記」は、鉄づくり千年が生んだ物語は、たたら製鉄が鉄を生産するだけでなく、砂鉄を採った

▼認定に歓喜
4月25日、文化庁は、雲南市と安来市、奥出雲町の「出雲國たたら風土記」を含む19件を日本遺産に認定したと発表しました。これを受けて同日、雲南市吉田町吉田の菅谷たたらにおいて祝賀セレモニーが開催され、地域住民ら50名が参加しました。

セレモニーでは、2市1町でつくる鉄の道文化圏推進協議会会長の速水雄一雲南市長から「日本遺産認定を通じて、地域住民の愛着や誇り、自信を育て、地域の活性化につながるようにしたい」とあいさつがありました。その後、副会長の近藤宏樹安来市長と勝田康則奥出雲町長とともにくす玉を割り、参加者全員と万歳三唱をして認定を祝いました。

跡地を稲田へ再生し、燃料の木炭に使う山林を失わないう工夫した持続可能な産業であったとともに、鉄の流通によって華やかな地域文化をもたらしたことをストーリーに盛り込んでいます。

2市1町にまたがる30件の文化財のうち、奥出雲町からは櫻井家・絲原家住宅や大呂愛宕祭りを始め15件が登録されています。

今後は、鉄の道文化圏推進協議会が中心となり、関係機関や地域住民が参画する日本遺産プロジェクトチームを立ち上げ、地域の魅力を国内外へ情報発信し、観光振興や地域振興に結び付ける取り組みが展開されていきます。



◀玉鋼製造(たたら吹き)伝承